

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 7 日現在

機関番号：15401

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K12632

研究課題名(和文) 体育教師の専門的力量形成に関するライフヒストリー研究

研究課題名(英文) A Study of Life History on the Professional Development of Teaching

研究代表者

木原 成一郎 (Kihara, Seiichiro)

広島大学・教育学研究科・教授

研究者番号：20214851

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ライフヒストリーの研究方法により、体育教師の専門的力量形成の過程を2名の事例を対象として明らかにした。元小学校体育専科教師の林氏の事例は、初任期中に専門的知識を持つメンターから学ぶこと、自分自身の教師観や児童観、学校観を持つことが「授業スタイル」の形成につながることで、「授業スタイル」の形成と変容に関して「教科内容」を明確にすることが大きな役割を果たすことを示した。中学校保健体育教師の小田氏の事例は、中学校の恩師の影響による教師像が基盤となり、初任期中に「授業スタイル」が形成されることを示した。また、中堅期にはメンターとの出会いが、新たな「授業スタイル」へ変容する契機となることを示した。

研究成果の概要(英文)：This study aims to clarify what factors made and transformed 'teaching style' in physical education of Elementary School Teacher Mr. Hayashi and Junior High School Teacher Mr. Oda through interpreting their life histories. The results are summarized as following points. 1. The 'teaching style' of Mr. Hayashi was formed by assistance of his mentor and his belief about teaching during the period of a novice teacher. 2. The 'teaching style' of Mr. Hayashi was transformed by his intention based on clarifying the contents of physical education. 3. The 'teaching style' of Mr. Oda in the period of a novice teacher was made by factors of 'belief as a teacher' and 'reflection on his teaching based on chances of professional development and resources left by predecessor'. 4. The 'teaching style' of Mr. Oda in the nucleus period was transformed by factors of meeting with Mr. E and Mr. F as a mentor and 'learning of the theory of physical education'.

研究分野：体育科教育学

キーワード：体育科教育 教師教育 ライフヒストリー 授業スタイル 教職経験 教師の信念 小学校体育専科教師 保健体育教師

1. 研究開始当初の背景

〔国内外の研究動向と本研究の位置づけ〕

山崎(2002)は、「教師の力量形成の契機」として、第1の「教室・授業」、その外に位置する第2の「学校・職場」、さらにその外側に位置する第3の「地域・家庭・社会」という3重円からなるモデルを描いている。つまり、教師の成長は、広汎な地理的範囲の中で生まれることがわかる。

さらに、吉崎(1998)は、「教師の生涯発達」を、採用されてから教職3年目ぐらいまでの「初心期」、教職5年目から15年目ぐらいまでの「中堅期」、20年目以降の「熟練期」の3段階に区分することを提案している。つまり、教員養成から退職するまでの生涯にわたる期間が教師の専門的力量形成の過程の対象となることを示している。

Stroot and Ko (2007)及び Armour (2007)によれば、欧米の体育教師は教員採用後「リアリティ・ショック」の荒波にもまれ、教員養成の成果を失う「洗い落とす効果」を経験していた。また、学校現場で重い「仕事の負担」を抱え、学校内の「周辺性」の地位に追いやられ、学校や教科内で「孤独」を感じながら、指導的立場の教員や大学教員から「メンタリング」を受けて教職経験を重ねて成長していく現状が明らかになってきている。本研究は、地域や学校の特殊な実情を踏まえた事例的で質的な研究に挑戦し、日本の条件に即した体育教師の成長過程を探求する。

〔これまでの研究成果を踏まえ本研究の着想に至った経緯〕

須甲ら(2009)は、ライフヒストリーの方法で初任の5名の教師に行ったインタビューを分析し、彼らの「授業に関する信念変容の転機」を実証している。また、嘉数(2010)は、教員養成課程の学生に行った質問紙に書かれた自由記述をKJ法を用いて分析し、教育実習前後の「教師観」と「授業観」の変容の事実を実証している。しかし、須甲ら(2009)は、「初心期」の「信念変容の転機」を示したものの、その後の教職生活全体的内容は示していない。本研究は、「初心期」「中堅期」「熟練期」の生涯にわたる期間を対象に専門的力量形成の過程を探求しようと考えた。

〔これまでの研究成果の発展〕

木原成一郎ら(2013)は、ライフヒストリーの方法で小学校での教職24年目を迎えるA教諭が、どのような教職体験を契機として、現在の体育授業観を形成するにいたったのかを明らかにした。本研究は、研究対象を中学校の体育教師にも拡大し、体育教師の力量形成の過程を探求する。

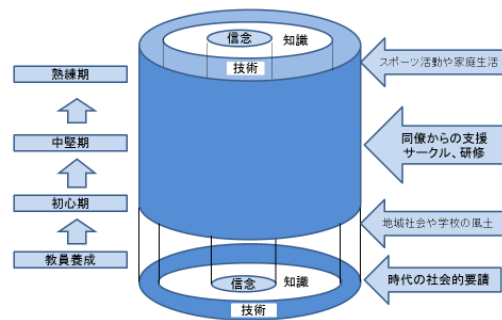
<文献>

■ Stroot, S. A. and, Ko, B. (2007), 'Induction of beginning physical educators into the school setting', D. Kirk, D. Macdonald, M. O' Sullivan ed., Handbook of Physical Education, Sage.

■ 嘉数健悟(2010)「保健体育教師における信念の形成に関する基礎的研究」(広島大学大学院教育学研究科平成21年度修士論文) ■ 須甲理生・岡出美則(2009)「中学校体育教師の授業に関する信念の変容過程」(日本スポーツ教育学会第29回大会配布資料) ■ 山崎準二(2002)『教師のライフコース研究』創風社。 ■ 吉崎静夫(1998)「一人立ちへの道筋」藤岡完治他編『成長する教師』金子書房、pp.162-173。 ■ 木原成一郎、村上彰彦(2013)「体育授業の力量形成に関する一考察」『学校教育実践学研究』第19巻、247-258。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ライフヒストリーの研究方法により、体育教師の専門的力量形成の過程を明らかにすることである。学校教育の成果を左右する教師の力量形成に求められる研修の内容を開発するために、その力量形成過程の特質を明らかにすることが必要だからである。体育教師の専門的力量形成は、教職課程に入学する前から教職課程を経て学校に入職してから生涯にわたって継続的に行われる。また、体育教師の専門的力量形成は、授業の経験、学校での職務上の役割、学校を取り巻く地域での活動や家庭生活という広がりの中で行われる。ライフヒストリーの方法により、個性的で多様な性格を持つ体育教師の力量形成過程にある典型的な特徴を明らかにする本研究は、体育教師の研修の時期と内容の確定に多大な成果をあげることが期待できる。

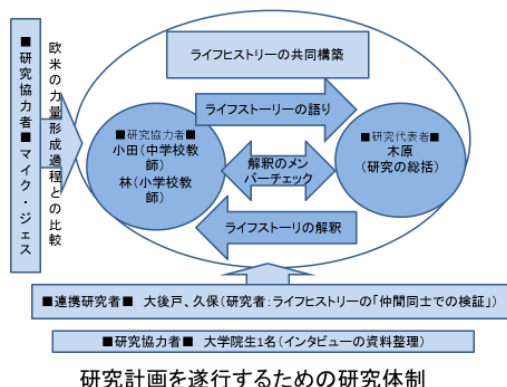


体育教師の力量形成の過程

3. 研究の方法

1年次は、元小学校体育専科教師の林氏を対象に、入手したライフストーリーと文献資料を木原が解釈し、体育授業に関する力量形成の契機に注目したライフヒストリーを提案し、林氏によるメンバーチェックを経て、ライフヒストリーを共同構築する。さらに、大後戸氏による「仲間での検証」を行い、ライフヒストリーの妥当性を高める。2年次は、中学校保健体育教師の小田氏を対象として1年次と同様の研究を行う。3年次は、それまでの2年間に作成した2名のライフストーリーを総合的に検討し、日本の体育教師の力量形成過程にある成長の契機と必要な支援の

典型的な様相を明らかにする。構築したライフストーリーの成果を毎年国内外の体育関連学会で発表し洗練することに努める。



4. 研究成果

<林氏の事例研究>

元小学校体育専科教師の林氏は附属小に初任教師として赴任し、その段階で「教師としての信念」を形成していた。その後「附属小の校風と教師としての成長の契機」を背景に、「授業スタイル」の形成を行い、「運動教材の教材解釈による教科内容把握の必要性」を問い続けながら、「授業スタイル」の変容を行っていった。その変容の契機は、第1に、「運動教材の技術的内容に関する専門性が不足しているという不安」や「器械運動において苦手な子どもの技能指導に行き詰まる」という困難の経験であった。第2の契機は、「学校体育研究同志会、中村敏雄氏との出会い」「『スポーツ運動学』(クルト・マイネル)から、運動経過の「他者観察」と「自己観察」の概念を学んだこと」「出原泰明氏の教育内容論の摂取」という体育理論の学習にあった。

元小学校体育専科教師の林氏のライフストーリーの事例は、初任期に体育授業の指導方法や教材解釈を体育の専門的知識を持つメンターから学ぶこと、初任期から自分自身の教師観や児童観、学校観を持つことが「授業スタイル」の形成につながることで、体育の「授業スタイル」の形成と変容に関して「教科内容」を明確にするという意識が大きな役割を果たすことを示している。

<小田氏の事例研究>

中学校保健体育教師小田氏の「授業スタイル」は、中学校時代の恩師の影響により形成された教師像を基盤として、初任として採用されたC市立O中学校の8年間に形成された。それは、教える内容を明確にして開発された運動教材を用いて、子ども達に運動技能の習得過程を観察し記録させて練習の課題を理解させた後、子ども達に運動の課題を自覚した練習をさせて運動技能の上達を図るという「授業スタイル」であった。

採用9年目で転任したC市立P中学校の6年間は、生徒指導の困難を抱えた大規模校で、

管理的な保健体育授業を実践せざる得ない挫折を味わった。しかし、6年目にそれまで開催されていなかった体育祭を翌年に開催する素案を提案したように、中学校時代の恩師の影響により形成された教師像は保持していたといえる。

採用15年目に転任したC大学附属Q中学校では、転任直後からE氏の支援でそれまでの自己の「授業スタイル」の根拠となる体育授業の理論を身に付けることになった。また、C大学附属Q小学校のF氏の体育授業を参観したことを契機として、小田氏の「授業スタイル」は、第1に「競争」を教える内容に設定する教育内容観、第2に教師が目標とした運動技能の評価基準を生徒と対話してすりあわせることにより、教師の目標を子どもの目標に転化させる指導観について変容した。

小田氏のライフストーリーの事例は、中学校の恩師の影響による教師像が基盤となり、初任期に研修や前任者の残した資料や著作から学んだことを実践し、時間的な余裕のある職場で子どもの学習成果を振りかえることを契機として「授業スタイル」が形成されることを示している。また、中堅期にE氏やF氏というメンターとの出会いにより、自己のそれまでの「授業スタイル」の背景にある体育授業理論を自覚するとともに、新たな教育内容観や指導観を含む「授業スタイル」へ変容したことを示している。

元小学校体育専科教師の林氏と中学校保健体育教師の小田氏の事例の両者の結果を比較し、小学校と中学校の学校種の相違が教師の成長の契機や「授業スタイル」の形成と変容に与えた影響については十分考察することができなかった。今後残された課題である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

①木原成一郎・小田啓史・大後戸一樹 (2018) 授業の力量形成に関するライフストーリー研究(その3) - B氏の体育授業を中心に- 学校教育実践学研究 第24巻, pp. 149-156. http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/ja/search/item/45468?all=%E6%95%99%E8%82%B2&include_file=exclude 【査読なし】

②木原成一郎、林俊雄、大後戸一樹(2017) 「授業の力量形成に関するライフストーリー研究(その2) - A氏の体育の「授業スタイル」を中心に-」『学校教育実践学研究』第23巻, pp. 81-91. <http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/ja/search/item/42777?all=%E4%BD%93%E8%82%B2&sort=id%3Ar> 【査読なし】

③木原成一郎、林俊雄、大後戸一樹(2016)「授業の力量形成に関するライフヒストリー研究- A 氏の体育授業を中心に-」『学校教育実践学研究』第 22 巻. pp. 217-227.

http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/ja/search/p/682/item/40414?sort=updated_at

【査読なし】

〔学会発表〕(計 5 件)

①木原成一郎、林俊雄、大後戸一樹「授業の力量形成に関するライフヒストリー研究」『日本体育学会第 66 回大会』2015 年 8 月 25 日～8 月 27 日、国士舘大学.

②木原成一郎、林俊雄「授業の力量形成に関するライフヒストリー研究- A 氏の体育授業を中心に-」『日本教科教育学会第 41 回大会』2015 年 10 月 24 日～10 月 25 日、広島大学.

③木原成一郎「体育科教育において育成される人間の能力- 小・中学校の授業研究の事例から-」『東北大学高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター(招待講演)』2015 年 8 月 4 日～8 月 4 日、東北大学.

④木原成一郎、林俊雄、大後戸一樹「授業の力量形成に関するライフヒストリー研究(その 2)」『日本体育学会第 67 回大会』2016 年 8 月 24 日～8 月 26 日、大阪体育大学.

⑤木原成一郎、大後戸一樹「授業の力量形成に関するライフヒストリー研究(その 3)」『日本スポーツ教育学会第 37 回大会』2017 年 10 月 28 日～10 月 29 日、茨城大学.

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0 件)

○取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

木原 成一郎 (KIHARA SEIICHIRO)
広島大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：20214851

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

大後戸 一樹 (OSEDU KAZUKI)
広島大学・大学院教育学研究科・准教授
研究者番号：20632821

久保 研二：(KUBO KENJI)
島根大学・教育学部・准教授
研究者番号：90594698

(4) 研究協力者

林 俊雄 (HAYASHI TOSHIO)

小田 啓史 (ODA HIROFUMI)